

# KUMAMOTO ARTPOLIS NEWS

vol.37



## ★完成プロジェクト

- 宇土市立宇土小学校
- 宇土市立網津小学校

## ★人材育成事業

- 東北支援プロジェクト「みんなの家」

## ★シンポジウム

- 公共建築の日・熊本駅前デザインシンポジウム

## ★プロポーザル

- 和水町立三加和小・中学校
- 和水町立菊水小・中学校

## ★プロジェクト速報

- 菊池市街地ポケットパーク
- 宇城市立豊野小中学校
- 熊本県立球磨工業高校管理棟

## ★トピックス

- 第17回くまもとアートポリス推進賞
- くまもとアートポリス見学バスツアー
- ようこそ!KAP ●くまもとアートポリス海外巡回展





特徴的なヴォールト屋根が連続する外観

## 宇土市立 宇土小学校

雑木林の木陰に教室がすべりこむ、  
限りなく外に近い学校

宇土小学校は平成20年に公開プロポーザルを開催し、約1年間の設計期間を経て、平成21年11月に着工し、平成23年7月に竣工。設計を担当したシーラカンズアンドアソシエイツ(CAt)によると、「熊んらしい豊かな樹木に囲まれて、子供たちが開放的な校舎の周りで元気に走り回っている姿に触発され設計。その元気が新しい校舎でも存分に発揮できるように、樹木の間伸びやかに開放的な空間を生み出すことを目指した結果が、「雑木林の中にL型壁による教室群が滑り込む、まるで外のような学校」という発想につながった。」と語っている。



教室まわりの空間・領域を豊かにする多様な学習活動に対応。  
「宇土市は平成21年、教育立市プランを策定。宇土小学校ではプロポーザル時から学校やPTA、地域、そして教育委員会をはじめとする市の方々の教育にける熱い思いを感じてきた」と、設計者の赤松佳珠子氏。L型の壁によって緩やかに教室ゾーンが形成される「宇土タイプ」と呼ぶ新しい学校のあり方を実現した。

風が通り抜け心地よい空間が演出されている。  
外部との境界面には天井高いっぱい開閉できる折戸を用いることで境界面はすべて開け放たれ、学校全体が子どもたちの活動の場となる。新校舎での生活が始まり、子どもたちは中庭を元気にいっぱい走り回り、緩やかな風の心地よい教室やワークスペースでクラスや学年を超えて活動の幅を広げている。



校舎(左)と体育館(右)で囲む中庭



設計者 小嶋 一浩 CAt



設計者 赤松 佳珠子 CAt

### Photo Gallery フォトギャラリー



L壁に囲まれた教室



晴れた日には外もワークスペースとなる



クラスや学年を超えて活動できるスペース

**宇土市立宇土小学校**  
●DATA  
構造・階数 鉄筋コンクリート一部鉄骨造 2階建て  
発注者 宇土市  
設計 小嶋一浩+赤松佳珠子/CAt  
建築 株式会社小竹組  
電気 株式会社熊栄電設  
機械設備 株式会社熊栄電設  
竣工 2011年7月

## 宇土市立 網津小学校

連続したヴォールト屋根と  
大きな庇の小学校

網津小学校の改築計画は、平成20年2月の公開プロポーザル案提出から一年半余りの設計期間を経て、平成21年11月に工事着手。建物は平成23年3月に竣工した。設計を担当した坂本一成氏によると、「児童がのびのびと学ぶ豊かな小学校にしたい。そこで、高さの低い開放的な校舎を薄い連続したヴォールト屋根(かまぼこ型)にすることで周りの風景との繋がりを意識した」設計になっている。

柱はあるが梁がない開放的な構造が子どもたちを育てる。

「住宅が家族の家ならば、小学校は児童にとって初めて社会と関わる家であり、同時に大人にとっては地域社会の家であると考え、この連続ヴォールトの大きな屋根の下で活発に学び、庇の下の縁側スペースや校舎の周りで元気に遊ぶ児童、そして児童と一緒に活動する先生方、更に学校開放で楽しく交流する地域の人々の姿をイメージしながら設計を進めてきた。」また、木の温もりとアーチ型の窓が開放感を高めている。



アーチ型の窓が特徴の教室

### Photo Gallery フォトギャラリー



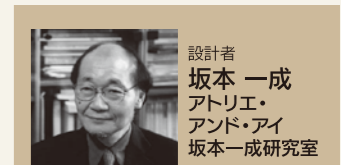
学校正面



明るい光が差し込むパソコンルーム



教室



設計者 坂本 一成 アトリエ・アンド・アイ 坂本一成研究室

**宇土市立網津小学校**  
●DATA  
構造・階数 鉄筋コンクリート造 2階建て  
発注者 宇土市  
設計 坂本一成/アトリエ・アンド・アイ 坂本一成研究室  
建築 株式会社小竹組  
電気 株式会社新星電設  
機械設備 株式会社熊栄電設  
渡り廊下 合資会社若下建設  
竣工 2011年3月



熊本と東北の「絆」を深める友情のカタチ 平成23年10月26日落成

「みんなの家」にみんなの笑顔が集まった。

平成23年10月26日、宮城県仙台市宮城野区に熊本の「想い」が組みあがった。

世界的に活躍されている建築家で、くまもとアートポリスコミッショナーである伊東豊雄氏が、東日本大震災において家を無くしたり避難を余儀なくされている方々に、精神的な安らぎを感じられる空間「みんなの家」を提供するプロジェクトを提案され、県はその提案に賛同し、くまもとアートポリスの事業として、県外で初めて展開することを決定した。平成23年9月、熊本の学

生や建築士など多くの方々に参加し、熊本市内（協同組合熊本ランボックス）で行われた仮組（モックアップ）から始動し、9月12日は本体木材の出発式、9月17日には主旨に賛同した湯前町、水上村からみんなの家の渡り廊下部分及び建具用の木材の提供を受け、9月13日、現地での起工式を経て、平成23年10月26日に落成の日を迎えることになった。



モックアップ



出発式（湯前町）



施工中



竣工

必要にして十分な広さで、まるで我が家のような温もりがみんなを包み込みます。



みんなの家は、木造平屋建て約39㎡。県産のスギ・ヒノキが使われ、小上がりには八代産の畳表が使われている。仮設住宅の集会場と渡り廊下でつながり、気軽に行き来できる。内部の薪ストーブの横には大きな木製のテーブルがあり、温もりのある井戸

地元自治体をはじめ、アートポリス関係者が出席して行われた落成式。

前日の寒さとは打って変わって快晴の下、設計を担当した伊東豊雄コミッショナーをはじめとする4人の設計者、地元仙台市、仮設住宅自治会、熊本県関係者など約100名が出席して落成式が行われた。避難所の方々やこれまで手伝ってくれたボランティアと住民の方々によって花壇には花が植えられ郷土料理「芋煮」が用意されていた。伊東豊雄コミッショナーは「受け入れ側の皆様のご協力あってのプロジェクト。感謝しています。カラオケなど入れて、どうぞ自由に使ってください(笑)」と挨拶。避難所に暮らす人々の手に、熊本県民の想いが詰まった「絆」が手渡された。



みんなの家

●DATA

- (1) 事業主体：熊本県
- (2) 事業支援団体：くまもとアートポリス東北支援「みんなの家」建設推進委員会  
 (財)熊本県建築住宅センター、(社)熊本県建築士会、  
 (社)熊本県建築士事務所協会、(社)熊本県建設業協会建築部会  
 (社)熊本県木材協会連合会
- (3) 設計：伊東豊雄氏、桂英昭氏、末廣香織氏、曾我部昌史氏
- (4) 提供場所：宮城県仙台市宮城野区福田町南一丁目公園内 仮設住宅地内  
 仮設住宅地内(62戸 入居者49世帯・128人)
- (5) 構造・規模：木造(熊本県産材使用)平屋建 建築面積58.33㎡ 延床面積38.88㎡
- (6) 仕様：リビング・キッチン・トイレ
- (7) 材料提供：熊本県湯前町、熊本県水上村、熊本県い業生産販売振興協会 他多数

端会議の場となる。キッチンやトイレにもふんだんに木材が用いられ、新しい畳の香りが漂う室内は、震災によって寸断された地域のコミュニティーを、少しでも早く取り戻してもらいたいという想いと優しさが、随所に散りばめられている。



仮組から現地作業まで多くの方々が参加。

大学生や建築関係者がボランティアとして、家具製作や塗装などに参加された。



塗装作業



家具の製作



笑顔。この言葉の持つチカラを「みんなの家」から東北全体に広げたい。

仮設住宅自治会・平山会長は「こんな素敵なプレゼントをいただき、本当にありがとうございます。私たちは大津波によって何もかも全部流されてここに来ました。これからは復興に向けてみんなで助け合いながら頑張っていきます」と挨拶。小さな木造の家だけれども、この「みんなの家」のアイデアが広がれば、どれほど被災地の皆さんを勇気づけることができるだろうか。「学びつつ創る、創りつつ育む」。くまもとアートポリスの精神は、関わったすべての人々の心に根ざし、やがて日本中に輝く芽を出すに違いない。



上棟式でのもち投げ



## 公共建築の日 熊本駅周辺 Artpolis デザインシンポジウム開催

平成23年10月22日、「くまもと森都心プラザ」を会場に開催。200人を超える参加者があった。午前中は、熊本駅周辺整備の状況を見て回る見学会が行われ、午後は国土交通省九州地方整備局 吉田宮繕部長の挨拶のあと、熊本市熊本駅周辺整備事業事務所 田中次長の「熊本駅周辺のまちづくり」講演でスタートした。加えて駅周辺整備におけるアートポリス設計者によるパネルディスカッションと伊東豊雄くまもとアートポリスコミッショナーを中心に東北支援「みんなの家」の報告会が行われた。



国土交通省九州地方整備局 宮繕部長 吉田 弘氏 講演者：熊本市熊本駅周辺整備事務所 次長 田中 隆臣氏

## 報告会 東北支援 「みんなの家」



伊東コミッショナーからは「被災地の現状を見て、建築は誰のためにつくるのか、何のためにつくるのか」と、自問自答した。そして建築の原点に立ち戻ろうと思ひ、被災者の皆さんと意見交換を重ね、まるで民家のような家が出来た」と説明があった。また、3人のアドバイザーからの発案で、学生等の参加者を募り、県内での仮組や仙台での家具づくりを行い、学生ボランティアなど、多くの人々の協力で「みんなの家」は完成した。

### パネル ディス カッション

## 建築とまちづくりの新しい関係～ 熊本駅周辺から



コーディネーター  
桂 英昭  
(くまもとアートポリスアドバイザー)

コーディネーターの桂アドバイザーの進行でパネルディスカッションがスタート。4つのプロジェクトの各設計者から内容の説明と、「熊本のまちづくりに役立つような新提案」について発表された。桂アドバイザーは「とても面白い。想像もしていないような切り口の提案が多数あった。アートポリスは建築家が自分のためにだけ好きなデザインをやっているとい

うイメージもある。実はいつも街や自然や生活する人々のことを考えていて、その中でデザインはどうあるべきかと考えてやっている」と。伊東コミッショナーからは、「駅とか駅前広場の開発には、ほとんど個人の建築は関われない。土木とか都市計画の人たちで進められる。だから全国、どこへ行ってもほとんど同じ。そんな中で、今回の再開発に優秀な個人の建築家を組み込んでもらったのは大いに意義のあること。」という講評があり、最後に桂アドバイザーは「このような自由な意見を自由に発表できる場をどんどん作ってもらって、国や県や行政につないでいく。そうしていかないと本当に楽しい街はできないと思う。熊本の駅前、他にありふれたような商業ベースだけの街じゃない、そんな空間をこれからも作っていきたいと思う」と、締めくくった。



### 西沢 立衛氏

(熊本駅白川口(東口)駅前広場設計者)  
熊本駅東口は、市電、バス、歩行者、タクシーなど、いろいろな角度から動線が出て行くという機能的に複雑な場所。電停やタクシー乗り場や人の動線などの機能の処理だけに終わらない、緑溢れる熊本のイメージを創る、公園のような駅前広場を目指した。今後の提案としては、駅周辺の街全体を「森」にしようという案。極端に言えば一歩ビルを出ればそこは森の中みたいな空間。世界的にも例がないのでは。



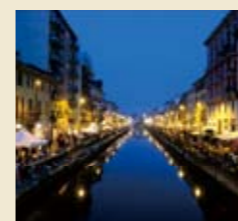
### 佐藤 光彦氏

(熊本駅新幹線口(西口)駅前広場設計者)  
半屋外の公園のような駅前広場をつくること。そして、新幹線駅と住宅街をつなぐような場所にするを大きなテーマとした。特にこだわったのは車道と歩道の間には壁(スクリーン)。原寸大のモックアップを作り車の制動距離や見通し、壁の厚さなど検証しながら完成に至った。今後は、新しい都市生活を創造する西口という観点から、駅と町並みを結ぶような建築物を、どのように配置していくのが注目していきたい。



### アストリッド・クライン氏(左) マーク・ダイサム氏(右)

(熊本南警察署熊本駅交番設計者)  
交番の屋根の内側に色を塗って良かったと改めて思う。この街の人たちにとって交番の建物もフレンドリーな優しいイメージにしたいと思い設計した。昼間はもちろん、夜になると内側がライトアップされて遠くからでもカラフルに見える、楽しい建築物となった。今後のまちづくりについては、駅から2～3分の坪井川周辺に、カフェなど「楽しい」建築物ができ、リバーサイドを楽しめるようになってほしいと思う。



### 太田 浩史氏

(白川橋左岸緑地トイレ設計者)  
小さいトイレだが駅周辺のランドマークにもなる建築物。目印は「木」がいいのではと考え、木のイメージをデザインに反映した建築物にした。建築そのものが人に寄り添い、まるでペットのような存在であればいいと思う。今後、駅から坪井川方向へ歩いていって、二本木界隈を歩いて駅に戻ってくるような小路があれば楽しいと思う。



### パネル 展示

## くまもと森都心プラザ5階 ホワイエ 時間：11:00～16:30

アートポリスの駅前プロジェクトのパネル等展示及び公共建築の日の関連イベントとして、九州地方整備局、県及び市町村から提供を受けたパネルの展示を行った。



## 見学会 「熊本駅周辺見学会」

東西の駅前広場から出発し、駅交番、合同庁舎A棟、白川橋左岸緑地トイレ、東A地区再開発事業の現場を見て回った。担当者からの説明を聞いた参加者は、「より親近感が湧いた」「まちづくりの大切さがわかった」との声も聞かれた。



## アートポリス展示コーナー

くまもと森都心プラザ2F、観光・郷土情報センター内に、くまもとアートポリスの常設パネル展示コーナーを設置。熊本駅周辺整備に関連するアートポリスプロジェクトの紹介パネルや建築模型など、貴重な資料を展示中。



## 和水町立三加和小・中学校 プロポーザル審査

平成23年11月23日、和水町立三加和区域小中併設型校舎  
設計業務公募型プロポーザルの第2次審査(公開)を行い、最優秀賞が決定しました!

和水町三加和区域では、既存の三加和中学校敷地に中学校校舎の改修と三加和区域の3つの小学校を統合した校舎を併設する計画がある。この設計業務の公募型プロポーザルへの参加者を平成23年9月から募集したところ、全国から18件の応募があり、10月23日の一次審査では、二次審査に進む5件が選定された。また、11月23日には和水町三加和公民館で公開の二次審査が行われ、地域住民や学生など140人が審査を見守る中、最優秀賞は既存中学校舎の減築を提案したNNSH設計共同体が受賞した。



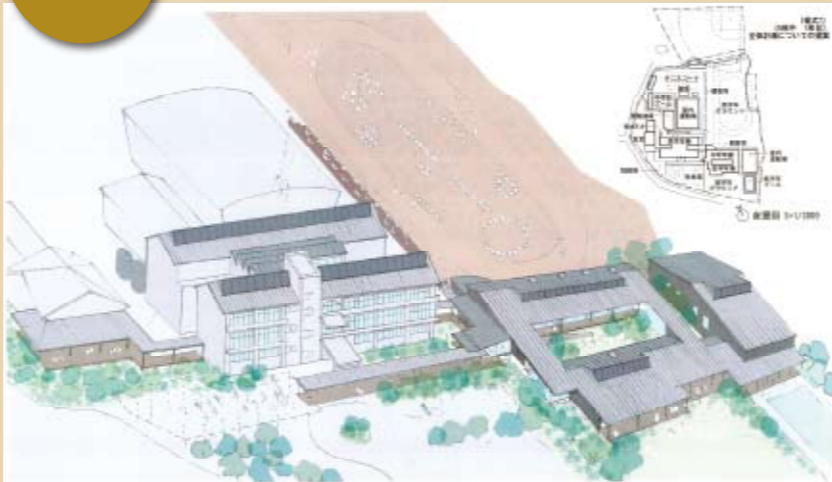
厳正なる審査が行われた審査会場

各社のプレゼンを真剣に聞く参加者

最優秀賞

### NNSH設計共同体

(野沢正光建築工房+一字一級建築士事務所+UL設計室+東大森裕子時空間設計室)



最優秀賞に選ばれた作品(プレゼン資料の一部パース)

優秀賞

### 吉武・環業務共同企業体



### 評価のポイント

最優秀賞のNNSH設計共同体は、徹底的な木造建築の提案とその情熱が審査員全員にひしひしと伝わった。これからの環境を考えるにあたって、既存校舎の「減築」という考え方も評価された。吉武・環業務共同企業体の案は、気持ちのいい学校になると感じた。スロープで上り下りするような空間構成は、小学生にとって楽しい学校になるだろう。その他、非常に整然としたバランスの良い計画だったパオプラン熊本チーム、南北方向に一直線に小学校の教室を並べた、シンプルで透明感がある中川建築設計事務所、子供たちだけでなく住民の人たちがいつでも集まれるような考え方に感動を覚えた中村、木下、雨宮、跡部のチーム案。5案は僅差だが、NNSH設計共同体の案が選ばれた。

佳作

株式会社パオプラン熊本

有限会社 中川建築設計事務所

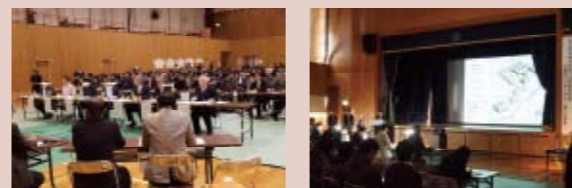
中村拓/木下昌大/雨宮知彦/跡部英広



## 和水町立菊水小・中学校 プロポーザル審査

平成24年3月20日、和水町立菊水小中併設型校舎  
設計業務公募型プロポーザルの第2次審査(公開)を行い、最優秀賞が決定しました!

町の総合グラウンドを大規模に造成し、4つの小学校(統合小学校)と中学校を併せた小中併設型校舎を計画している和水町菊水区域。設計業務のプロポーザル(提案コンペ)を開催したところ全国から36件の応募があり、一次審査(非公開)で5者を選定。選定では意見が分かれ、決戦投票を行うほど甲乙付け難い提案が集まった。二次審査(公開)は、平成24年3月20日、和水町ふれあい会館で開催。250人を超える参加があり、「龍+いるか+西山協働設計集団」が最優秀賞を受賞した。



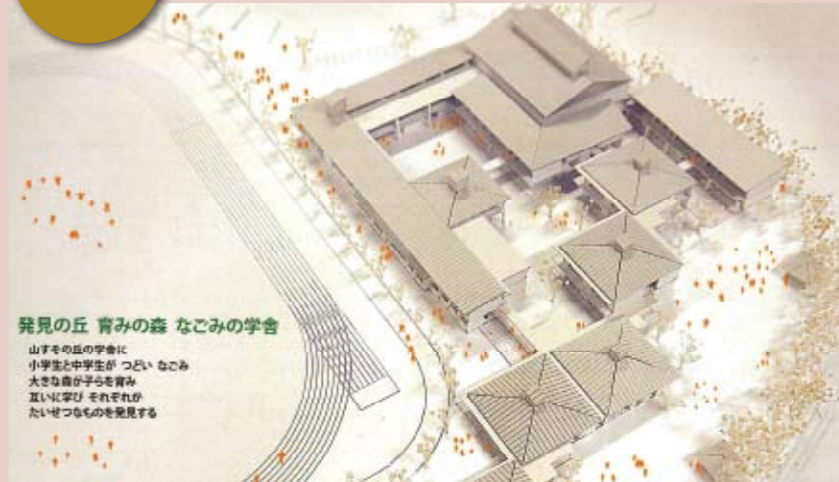
多くの観衆が見守った審査会場風景

熱心なプレゼンが行われた

最優秀賞

### 龍+いるか+西山協働設計集団

(龍環境計画+いるか設計集団+西山英夫建築環境研究所)



最優秀賞に選ばれた作品(プレゼン資料の一部パース)

優秀賞

### 平田晃久建築設計事務所+MAC



### 評価のポイント

最優秀賞に選ばれたのは、龍+いるか+西山協働設計集団である。その要因は、地元がイメージするプランに近い考え方が、敷地に一番ぴったりくるといふこと、そして、提案する建築が持つ安定感の2点に集約できる。優秀賞の平田晃久建築設計事務所+MACの提案については、力強さを持っており、新鮮であり、非常にフレキシブルに対応できるプランとして評価があった。5案の内、いずれも特色ある提案で、最優秀賞に選ばれる可能性があった。審査での説明姿勢や今後のワークショップから建設までを見据えた総合的な判断から、龍+いるか+西山協働設計集団が最優秀賞を受賞する結果となった。

佳作

吉武・環業務共同企業体

シーラカンスK&H+前原設計事務所

青木淳建築計画事務所+長野聖二・人間建築探検處



くまもとアートポリスでは、県内各地でプロジェクトを進行しています。地域での合意形成、アイデアの抽出、意見交換を経て、設計を確定していきます。

## 菊池市街地ポケットパーク

住民とのワークショップやシンポジウムなど、「対話」を重ねることにより、使う側に立った公園づくりを行う。平成24年3月末の完成を目指して菊池市切明(きりあけ)地区と横町(よこまち)地区の2ヶ所で工事が進む菊池市街地ポケットパーク。設計者の塩塚隆生氏によると「地域住民の皆さんとのワークショップやシンポジウムを通じた"対話"を重視して設計を行った。それぞれ足湯を設け、訪れる人の交流・滞留の場として、また地域住民の憩いの場として親しまれるよう計画しています」。どちらの公園も、まち歩きと連動することで菊池の良さを体感してもらうことを目指しており、平成24年4月にオープンとなる。

### 切明ポケットパーク



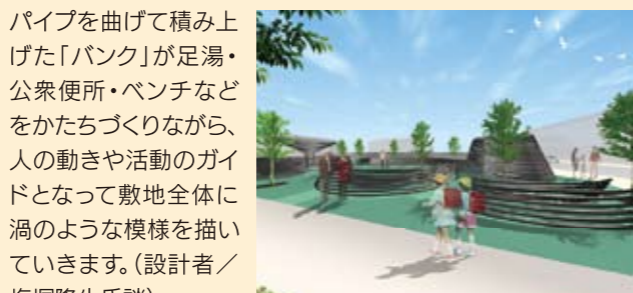
くぼんだ地面に水が自然と溜まってできたようなプリミティブな風景を、3つの水盤と石や岩を連想させる公衆トイレ・ベンチ・シェルターによって作りだします。(設計者/塩塚隆生氏談)

完成イメージパース



※写真は3月上旬の施工状況。

### 横町ポケットパーク



パイプを曲げて積み上げた「バンク」が足湯・公衆便所・ベンチなどをかたちづくりながら、人の動きや活動のガイドとなって敷地全体に渦のような模様を描いていきます。(設計者/塩塚隆生氏談)

完成イメージパース



## 宇城市立豊野小中学校

木造建築の技を結集して、風と太陽と明るさを計算したデザイン。

平成20年にアートポリスプロジェクトに決定した豊野小中学校(設計/小泉雅生+SDA建築設計事務所)。平成22年1月に第1回の住民参加ワークショップ「豊野学校ギャラリー開所式」を皮切りに住民と対話を重ねてきた設計も平成24年3月には完了。

4月から本体工事に着手し、平成25年4月には小中一貫校として開校予定。



完成イメージパース

## 熊本県立球磨工業高校管理棟

地元球磨地域の杉、ヒノキを中心に活用した圧倒的な力強さを表現。

平成23年の3月のコンペで最優秀賞に決定し、本格的な設計作業に入っていた熊本県立球磨工業高校管理棟(設計/ワークステーション+モードフロンティア+萩嶺一級建築士事務所)は、約1年の期間を経て、設計が完了。三角形の空間の組み合わせは、木の洞窟をイメージし、地元球磨地域の森林資源を活用するプランとなっている。今後、平成24年度に工事に着手し、平成25年秋に竣工予定。



完成イメージパース

## 第17回くまもとアートポリス推進賞

平成23年度の推進賞は、推進賞2作品、推進賞選賞に7作品が選ばれた。推進賞の「熊本市医師会館・看護専門学校」は、南と東側のアルミのファザードが特徴で、ゆらぎのある配置と孔の表情がこの建物にオリジナリティを付与している。またもう一つの推進賞である「高瀬」は、江戸時代に米の積出し港として栄えた場所で、通りに面する町屋のファザードの復元が特徴である。

推進賞



熊本市医師会館・看護専門学校(熊本市)



高瀬(玉名市)

推進賞選賞



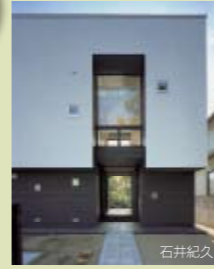
宮原邸(熊本市)



I-apartment(熊本市)



田園住宅(篠崎邸)(熊本市)



嘉島の家(上益城郡嘉島町)



松の湯(八代市)



矢部の家(上益城郡山都町)



Shipな家(熊本市)

## くまもとアートポリス 見学バスツアー

平成24年3月3日、アートポリスプロジェクトや通潤橋などを見学するバスツアー(参加者40名)を行った。当日は、午前8時30分より熊本駅白川口(東口)駅前広場の見学からスタートし、宇土市立宇土小学校、清和文楽館(昼食、清和文楽のミニ公演付き)、山都町の鮎の瀬大橋・通潤橋の見学&散策を楽しんだ後、熊本駅新幹線口(西口)駅前広場に戻り、解散した。参加者アンケートからは、熊本に居住してこれまで知らなかったことを教えていただき感謝、他のアートポリスも見たいなど、好評をいただいた。



鮎の瀬大橋



清和郷土料理館(昼食)



通潤橋

## ようこそKAP! 平成23年度視察状況

今年度は、東北大震災の影響もあり、例年に比べ、視察の申込は少なかったが、秋以降、徐々に視察者が増え始め、特に韓国からの視察団の増加が目立った。今後もアジアからの視察は増えると思われる。(参考)海外視察者数:約350名



小国町立北里小学校屋内運動場



白川橋左岸緑地トイレ

## くまもとアートポリス 海外巡回展

日本の伝統や文化などを海外に紹介する「海外巡回展」。くまもとアートポリスも取り上げられ、国際的な認知度も徐々に高まっているものと思われる。今年度はインドネシアなど3カ国で開催された。



# KUMAMOTO ARTPOLIS NEWS vol.37



宇土市立網津小学校  
Amitsu Elementary School

白川橋左岸緑地トイレ

SHIRAKAWA BRIDGE LEFT BANK PUBLIC RESTROOM



熊本南警察署熊本駅交番

KUMAMOTO MINAMI POLICE STATION KUMAMOTO-EKI KOBAN



熊本駅白川口(東口)駅前広場 暫定形

KUMAMOTO STATION SHIRAKAWA EXIT(EAST EXIT) SQUARE TENTATIVE



熊本駅新幹線口(西口)駅前広場

KUMAMOTO STATION SHINKANSEN EXIT(WEST EXIT) SQUARE



## ●発行

くまもとアートポリス事務局(熊本県土木部建築住宅局建築課内)

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

Tel 096-333-2537 Fax 096-384-9820

e-mail: kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp

<http://www.pref.kumamoto.jp/site/artpolis/>

※熊本駅前の「くまもと森都心プラザ」2Fに展示コーナーを設けています。

所在地:熊本市西区春日1丁目14番1号

発行者:熊本県  
所属:建築課  
発行年度:平成23年度